

月刊「建築技術」2017年 年間企画案

株式会社建築技術 編集部
〒101-0061 東京都千代田区三崎町 3-10-4 千代田ビル 4階
TEL 03-3222-5951 FAX 03-3222-5957

1月号 断熱と省エネの「わからないこと」と「知りたいこと」

【監修：南雄三（住宅技術評論家，南雄三事務所）】

原稿締切日：2016年11月下旬 雑誌発売日：2016年12月17日

日本の住宅業界はいま大きな変革期にある。人口減少や住宅の余剰，特に2020年の建築物の省エネ基準適合義務化に向けた省エネ推進の動きが加速している。改めて「これからの住環境」と「それを提供するために必要なこと」が問われている。この特集では，提供する住宅に主な必要事項を取り上げる。取り上げる必要事項は，施策，省エネ基準，断熱・気密と開口部，暖冷房・換気，結露。

2月号 CLT 関連告示と建築設計への活用法

【監修：安村 基（静岡大学大学院農学領域教授）】

原稿締切日：2016年12月中旬 雑誌発売日：2017年1月17日

2016年3月にCLT等関連告示が公布されたことにより，CLTに対する意匠設計者・構造設計者・製造メーカーなどの関心がますます高まっている。この特集では，CLT等関連告示の内容を部位別の仕様，設計法，燃えしる設計などで概説しながら，実務設計における活用法を解説し，告示の数値的根拠やX金物も解説する。さらに，今後CLTの普及を加速させるため，参考モデルとなる事例も紹介する。

3月号 間違えないためのRC工事の合理化を探る——つくることは考えること

【監修：大塚秀三（ものづくり大学准教授）＋中田善久（日本大学理工学部教授）】

原稿締切日：2017年1月下旬 雑誌発売日：2017年2月17日

職人不足，短工期およびコストパフォーマンスを背景に，建設業界は合理化・省力化施工が求められている。この特集では，コンクリート工事に焦点をあて，「コンクリート材料」「コンクリート工法」「型枠工法」「鉄筋工事」「生コン製造」「施工管理・検査・試験」「解体」のすぐ実践できる合理化・省力化技術（工法）を解説する。

4月号 うっかり間違える鉄骨構造設計の落とし穴 Part2

【監修：宮里直也（日本大学理工学部建築学科准教授）】

原稿締切日：2017年2月下旬 雑誌発売日：2017年3月17日

鉄骨造の構造設計においては，計画段階で見落としがあると構造性能や安全性に大きく影響が出ることになる。この特集では，鉄骨造の構造計画時に見落とされがちなこと，例えば接合部の仕様や図面の表記など，実務経験の浅い新人実務者が見落としとしてしまいがちな項目をピックアップし，見落としのない構造設計を行うためのポイントを解説する。

5月号 間違いやすい戸建住宅基礎設計のポイント

【監修：藤井 衛（東海大学教授）】

原稿締切日：2017年3月下旬 雑誌発売日：2017年4月17日

近年，集中豪雨による地滑り被害や地震による戸建住宅の基礎被害が見られ，宅地地盤や住宅基礎の安全性に対する関心が高まっている。この特集では住宅地盤の安全性の見極め方を解説しながら，地盤訴訟に占める割合が高い，不同沈下，がけ・擁壁，液状化などを取り上げ，基礎設計時で考慮すべきポイントを中心に解説する。

6月号 広がるBIMの活用法【施工編】

【監修：浦江真人（東洋大学教授）＋曾根巨充（前田建設工業）】

原稿締切日：2017年4月下旬 雑誌発売日：2017年5月17日

施工分野でBIMを活用するための基礎知識から建設会社や専門工事業者が具体的にBIMを活用してどのようなメリットを享受できるのかを解説しながら，事例紹介を通して点と点を結ぶ線を生み出す方法を解説する。

※特集テーマならびに監修者および特集の順番は，変更になる可能性があります。あらかじめご了承ください。

※ホームページからもご覧いただけます

月刊「建築技術」2017年 年間企画案

株式会社建築技術 編集部
〒101-0061 東京都千代田区三崎町 3-10-4 千代田ビル 4階
TEL 03-3222-5951 FAX 03-3222-5957

7月号 熊本地震以降の木造軸組住宅の設計の基本

【監修：大橋好光（東京都市大学教授）】

原稿締切日：2017年5月下旬 雑誌発売日：2017年6月17日

熊本地震では、木造軸組住宅の被害について注目された。年間約97万戸の住宅が建てられ、そのうち半数以上が木造住宅である。木造軸組み住宅の設計において、建築基準法を満たしているだけでは、しっかりした設計とはいえない。しっかりした設計をするために忘れてはいけない基本や配慮すべき注意点を再確認する。

8月号 省エネ法をラクラククリアする建築物省エネ設計法

【監修：前真之（東京大学大学院准教授）】

原稿締切日：2017年6月下旬 雑誌発売日：2017年7月15日

建築物の省エネ基準適合義務化が、2020年に向けて段階的に進められていることを背景に、省エネ設計手法が注目されている。この特集では、非住宅建築物よりも省エネ設計手法が進展している住宅における省エネ設計手法を、非住宅建築物にも転用できる手法を解説する。さらに、設計条件のカテゴリーごとに、省エネ効果の計算結果を示した事例も紹介する。

9月号 鉄筋継手を理解する設計・施工の基礎知識

【監修：和泉信之（千葉大学大学院教授）】

原稿締切日：2017年7月下旬 雑誌発売日：2017年8月17日

コンクリート材料の進化と同様に、鉄筋継手も変化してきている。設計や施工の実務においては、各種鉄筋継手の選択や検査、品質について正しい知識が求められる。この特集では、各種継手の特徴や設計監理・施工管理での注意点、設計や施工の実務で困ることの解決へのヒントを解説する。さらに、鉄筋継手工事標準仕様書の改訂の概要を解説する。

10月号 耐震補強のワンポイントレッスン

【監修：勅使川原正臣（名古屋大学大学院教授）】

原稿締切日：2017年8月下旬 雑誌発売日：2017年9月16日

国土強靱化計画では、東京をはじめとした大都市における建築物の耐震化率を2020年までに95%に引き上げることとされている。この特集では、木造戸建住宅、民間マンション、幹線道路沿いにある建物、超高層建築物など、建築物の規模や立地条件に合わせた耐震補強方法の最新の知見を、構造設計ならびに施工面から解説する。

11月号 つくる構造設計とつくられる構造設計

【監修：腰原幹雄（東京大学生産技術研究所教授）】

原稿締切日：2017年9月下旬 雑誌発売日：2017年10月17日

構造解析ソフトのブラックボックス化により、構造設計者の主体性の喪失が、昨今危惧されている。この特集では、構造設計者が主体的に構造デザインを意思決定し、構造解析ソフトに「つくられる構造設計」ではなく、独創的な構造システムで構築される構造空間をつくりあげる「つくる構造設計」を行うための構造設計者の感性を再び探る。

12月号 長周期地震動と建築物の安全性

【監修：北村春幸（東京理科大学理工学部教授）】

原稿締切日：2017年10月下旬 雑誌発売日：2017年11月17日

2011年東日本大震災の際、首都圏や大阪湾岸の超高層建築物において大きな揺れが観測された原因は、長周期地震動が原因の一つであると注目されている。また、国土交通省は2016年6月に「超高層建築物における南海トラフ沿いの巨大地震による長周期地震動への対策について」を発表している。この特集では、長周期地震動の特性や、超高層建築物などに与える影響を知り、その対策として、どのように安全性を確保すればよいかを解説する。

※特集テーマならびに監修者および特集の順番は、変更になる可能性があります。あらかじめご了承ください。

※ホームページからもご覧いただけます